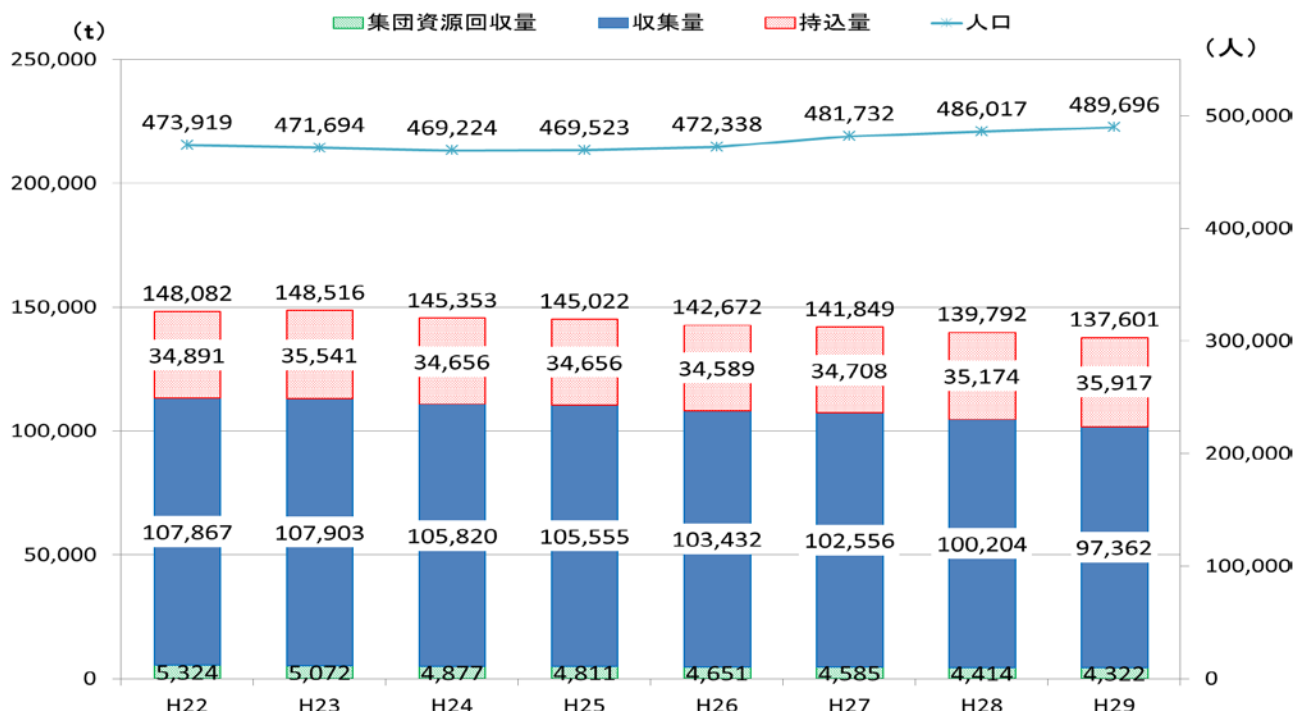


平成 29 年度のごみ排出量等の実績について

1 総排出量

人口とごみ総排出量の推移



※平成 29 年度は速報値

総排出量の内訳

単位: t

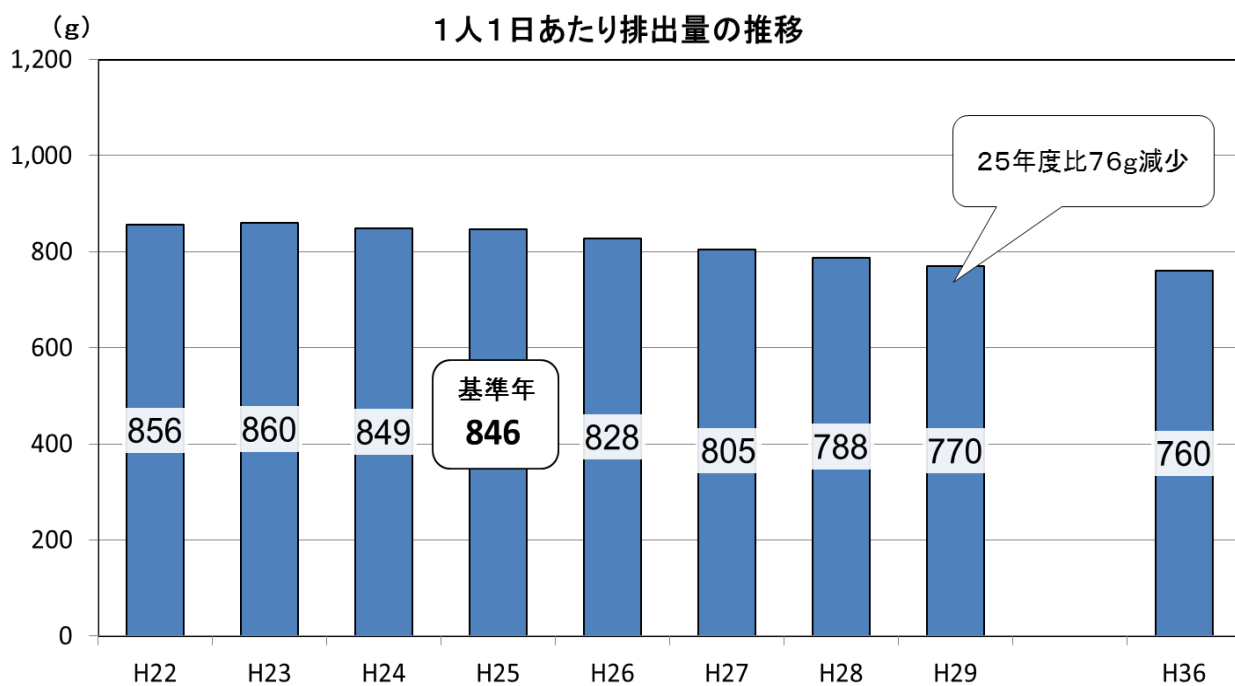
年度	25	26	27	28	29	28→29増減比較	
処理人口	469,523	472,338	481,732	486,017	489,696	3,679 0.8%	
収集量	燃やすごみ	80,767	79,561	78,735	77,056	74,889	▲ 2,167 ▲ 2.8%
	燃やさないごみ	3,875	3,794	3,739	3,421	2,842	▲ 579 ▲ 16.9%
	大型ごみ	1,893	1,633	1,729	1,714	1,652	▲ 62 ▲ 3.6%
	有害ごみ	48	27	26	24	51	27 112.5%
	資源物	18,972	18,417	18,327	17,989	17,928	▲ 61 ▲ 0.3%
	ビン	2,721	2,662	2,693	2,658	2,419	▲ 239 ▲ 9.0%
	カン	1,457	1,405	1,351	1,318	1,156	▲ 162 ▲ 12.3%
	新聞	1,461	1,337	1,138	1,004	907	▲ 97 ▲ 9.7%
	雑誌	3,272	3,221	3,078	2,871	3,080	209 7.3%
	ダンボール	3,545	3,524	3,630	3,693	3,745	52 1.4%
	紙パック	98	94	94	87	86	▲ 1 ▲ 1.1%
	布類	433	418	472	436	598	162 37.2%
	プラ容器	5,984	5,754	5,869	5,921	5,935	14 0.2%
小型家電	1	2	2	1	2	1 100.0%	
小計	105,555	103,432	102,556	100,204	97,362	▲ 2,842 ▲ 2.8%	
持込量	燃やすごみ	32,479	32,497	32,505	32,902	33,520	618 1.9%
	燃やさないごみ	716	698	722	665	784	119 17.9%
	大型ごみ	1,461	1,394	1,481	1,607	1,613	6 0.4%
	小計	34,656	34,589	34,708	35,174	35,917	743 2.1%
集団資源回収量	4,811	4,651	4,585	4,414	4,322	▲ 92 ▲ 2.1%	
総排出量(収集量+持込量+集団資源回収量)	145,022	142,672	141,849	139,792	137,601	▲ 2,191 ▲ 1.6%	

※人口は、各年度の10月1日現在の常住人口

※収集ごみ: 委託車両、拠点回収等の市直営により収集したごみ(主に家庭系ごみ)

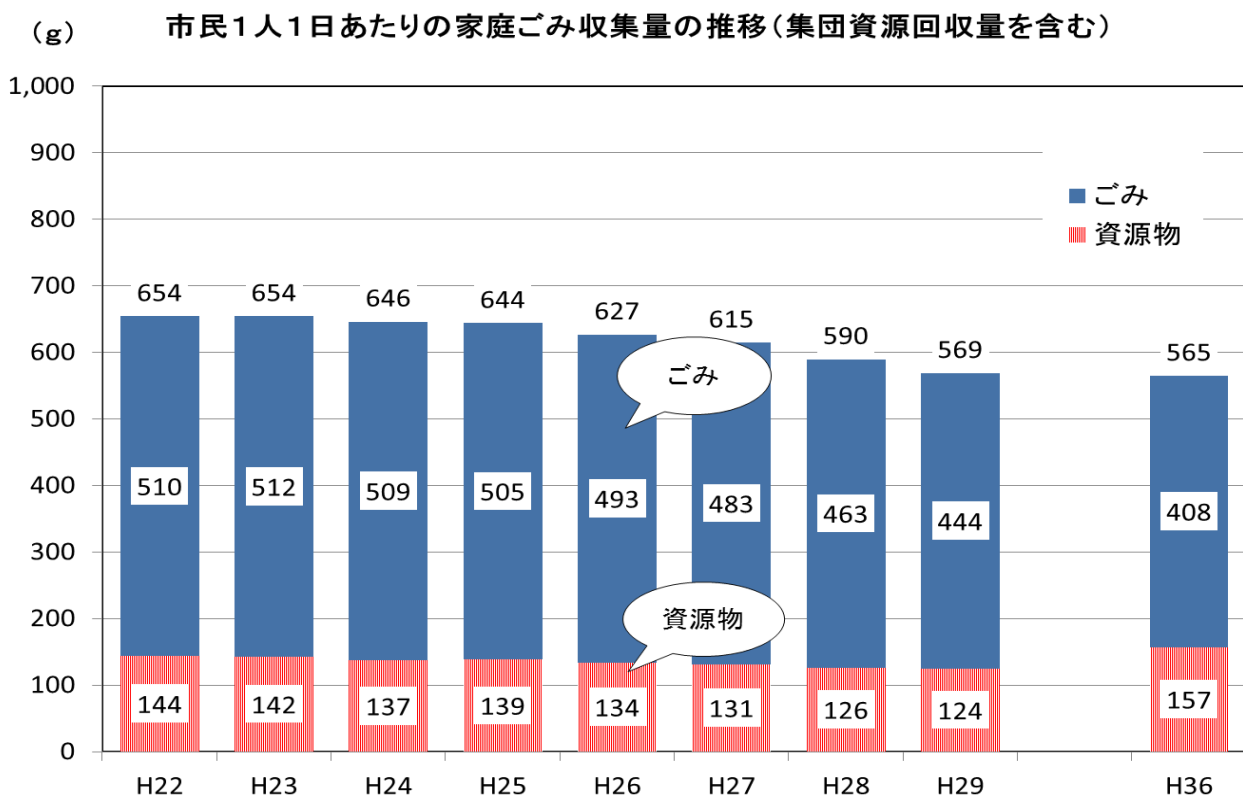
持込ごみ: 許可車両、自己搬入により持ち込まれたごみ(主に事業系ごみ)

2 1人1日あたり排出量



※平成 29 年度は速報値、平成 36 年度は計画値

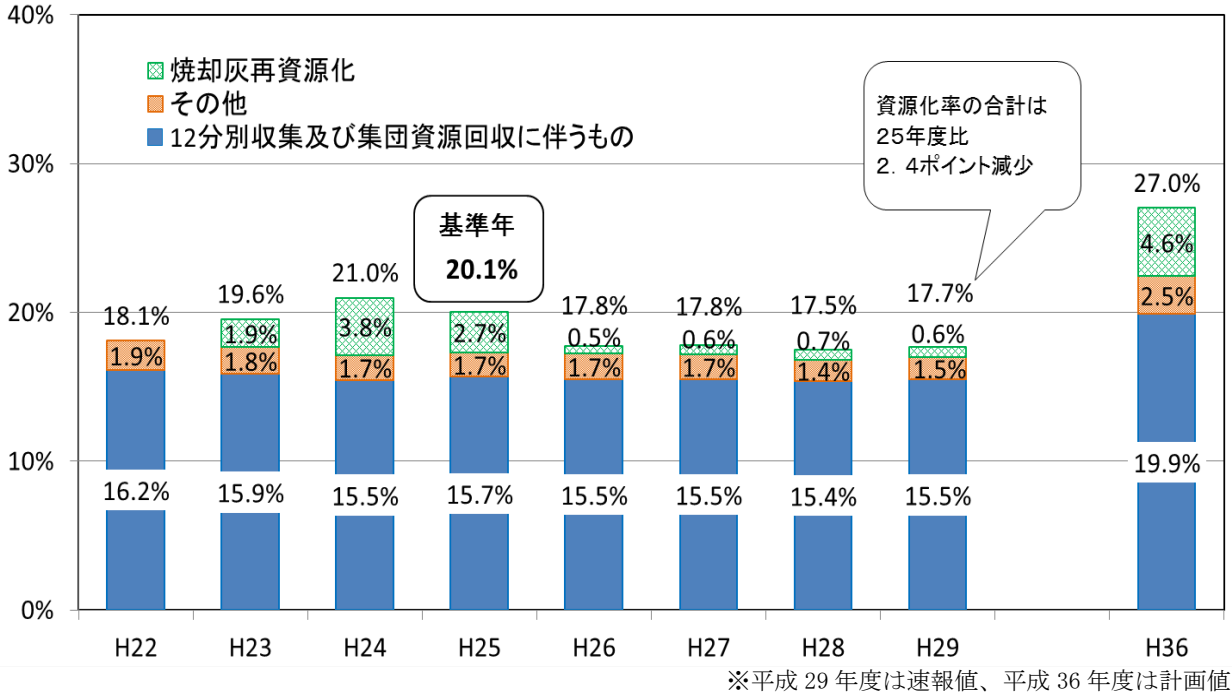
平成 25 年度 (実績)	平成 29 年度 (速報値)	平成 36 年度 (計画目標)
846 g (基準年)	770 g	760 g 以下



※平成 29 年度は速報値、平成 36 年度は計画値

3 資源化率

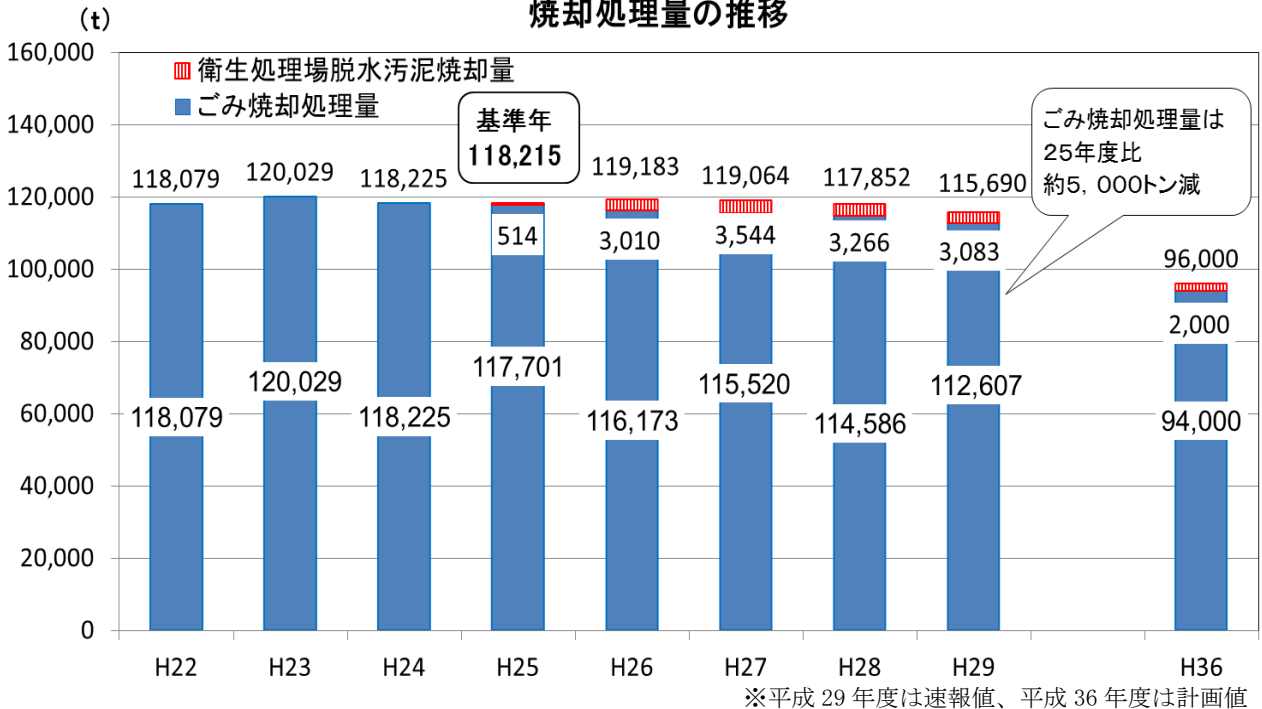
資源化率の推移



平成 25 年度 (実績)	平成 29 年度 (速報値)	平成 36 年度 (目標)
20.1% (基準年)	17.7%	27%以上

4 焼却処理量

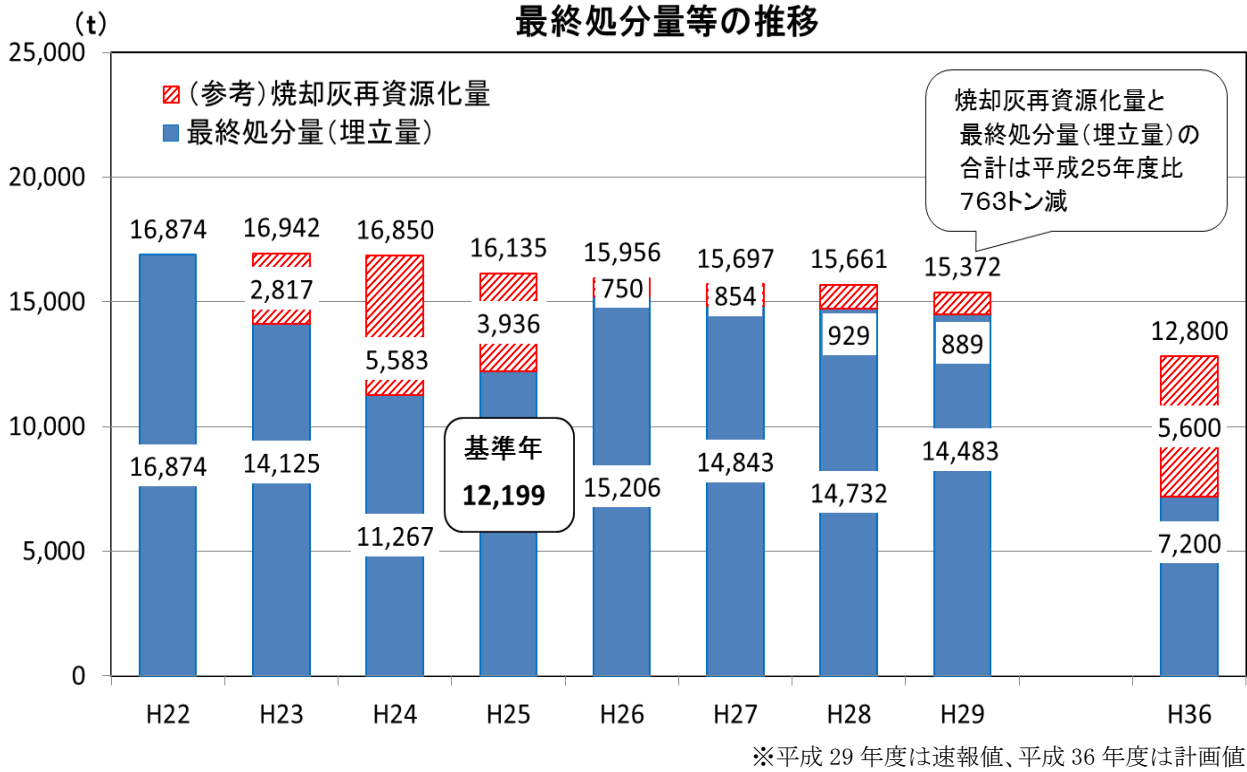
焼却処理量の推移



平成 25 年度 (実績)	平成 29 年度 (速報値)	平成 36 年度 (目標)
118,215 t (基準年)	115,690 t	96,000 t 以下

※焼却処理量は搬入量ベースの値、他市からの災害廃棄物 (519 t) は含まれていない。

5 最終処分量等



平成 25 年度 (実績)	平成 29 年度 (速報値)	平成 36 年度 (目標)
12,199 t (基準年)	14,483 t	7,200 t 以下

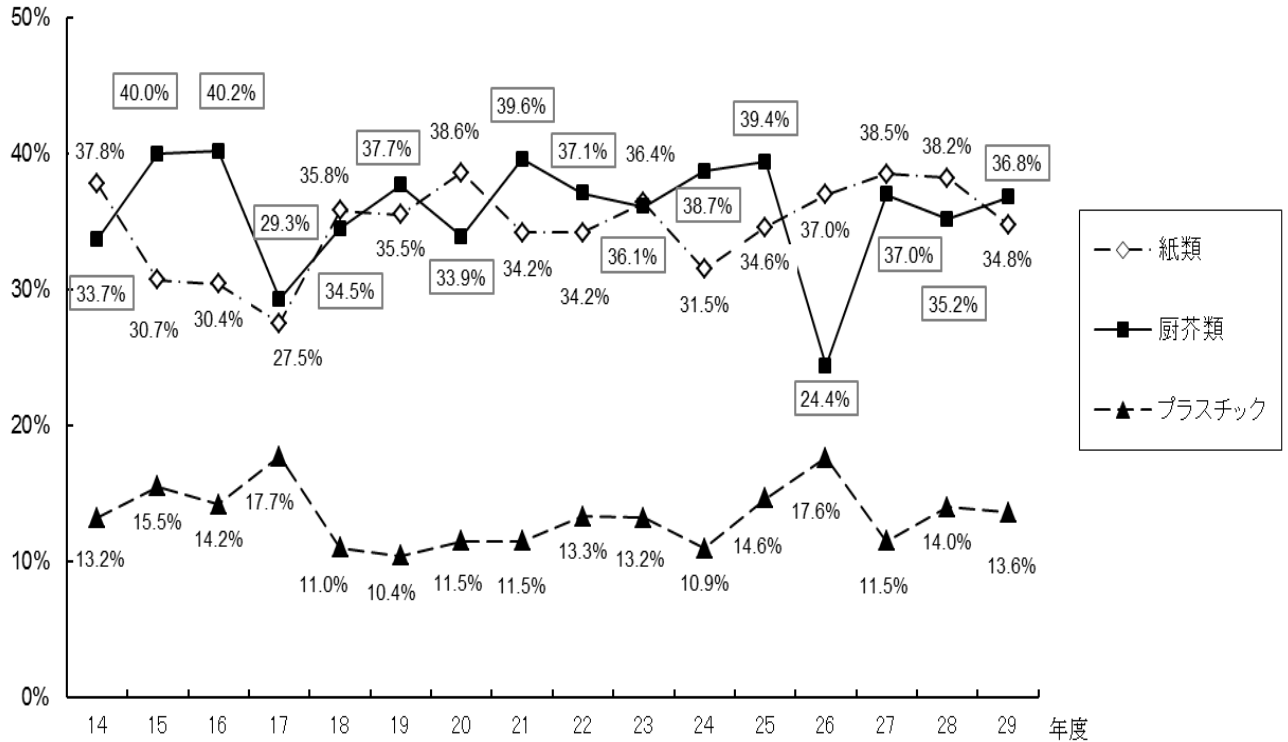
※平成 23 年度の他市からの災害廃棄物の処理相当量、放射性物質の影響による場内保管分は含まれていない。

(参考) 焼却灰・破碎残さの搬出先 (平成 29 年度)

焼却灰	埋立て	千葉県銚子市、千葉県富津市、秋田県小坂町、山形県米沢市
	再資源化	埼玉県寄居町、宮城県栗原市、茨城県鹿嶋市
破碎残さ	埋立て	千葉県君津市、千葉県富津市、秋田県小坂町

6 ごみの組成調査結果

家庭系燃やすごみの組成割合の推移(湿重量ベース)



(現状と課題)

- ・厨芥類（生ごみ）、紙類、プラスチック類が全体の約8割を占めており、引き続き、これらの品目のごみ減量・資源化対策が重要である。
- ・燃やすごみの中には、資源物として分別可能なものも多く含まれており、12 分別の徹底が求められる。
- ・組成割合（重量ベース）が最も大きい生ごみは含水量が多い（約8割）ことから、排出量の削減や燃焼効率の確保等の観点から、排出前の水切り対策が求められる。

平成 29 年度 ごみ質分析調査結果

